

研究成果を公表

田辺県内の工業系高校

県内にある工業系高校5校の生徒らによる「第33回工業教育研究発表大会」が19日、田辺市新屋敷町の紀南文化会館であった。生徒が学校で取り組んだ研究成果などを発表した。

県高校教育研究会工業部会、わかやま産業を支える人づくりネットワーク会議が主催。田辺工業、和歌山工業、紀北工業、箕島、紀央館の生徒が作文(6人)、研究(6組)、ポスターセッション(23組)の3部門で発表した。教員の発表もあった。

キャラクター「たなべえ」のからくり人形を製作したことについて紹介した。弁慶まつりなどのイベントで披露し、地域の人たちに喜ばれたという。発表した大澤晴輝君(18)は「からくり人形作りは、いろいろな技術が磨かれたので楽しかった。工業高校は楽しいということを発表で伝えたかった」と話した。ほかに同校の電気電子科3

年生7人による発表もあった。

作文部門では、各校の生徒が資格の取得やクラブ活動、就職活動などの学校生活で頑張ったことを発表。田辺工業の電気電子科3年の谷口哲史君は「高校3年間で学んだこと」と題して話した。ポスターセッションでは、生徒が決められた区画にポスターや作品を設置し、参加者に説明した。田辺工業からは5組が発表した。

閉会式で生徒の表彰があり、田辺工業は作文で佳良賞、研究で優秀賞と佳良賞、ポス

ターセッションでアイデア賞などを受賞した。



壇上で発表する田辺工業高校の生徒(19日、田辺市新屋敷町で)